

噴火湾環境情報 NO.3

2019/2/21

湾内の水塊交替が始まりました

道総研函館水産試験場
調査研究部
担当:西田、渡野邊

2019年2月15日から16日にかけて、釧路水試北辰丸を用いて噴火湾及びその周辺海域の環境調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。湾外の表層（深度10m）では沿岸親潮（指標：水温 3°C 以下、塩分33.3以下）、及びその性質を強く持った水塊に広く覆われ、それら水塊の一部は胆振側から湾内へ流入しています（図1（a）、（b））。一方、底層では、湾内に分布していた冬季噴火湾水（指標：水温 6°C 以下、塩分33.6以上）が渡島側から岸に沿って湾外へ流出しています（図1（c）、（d））。したがって、噴火湾では水塊交替が開始されたと考えられます。なお、沿岸親潮水の湾内占有率は約1%と平年に比べ低くなっています（図2）。

太平洋沿岸域における定期観測の結果から（図3）、苫小牧沖には水温 1°C 台の沿岸親潮が分布しており、今後、この水塊が噴火湾に流入することにより、湾内の水温は $1\sim 2^{\circ}\text{C}$ 低下することが予想されます。

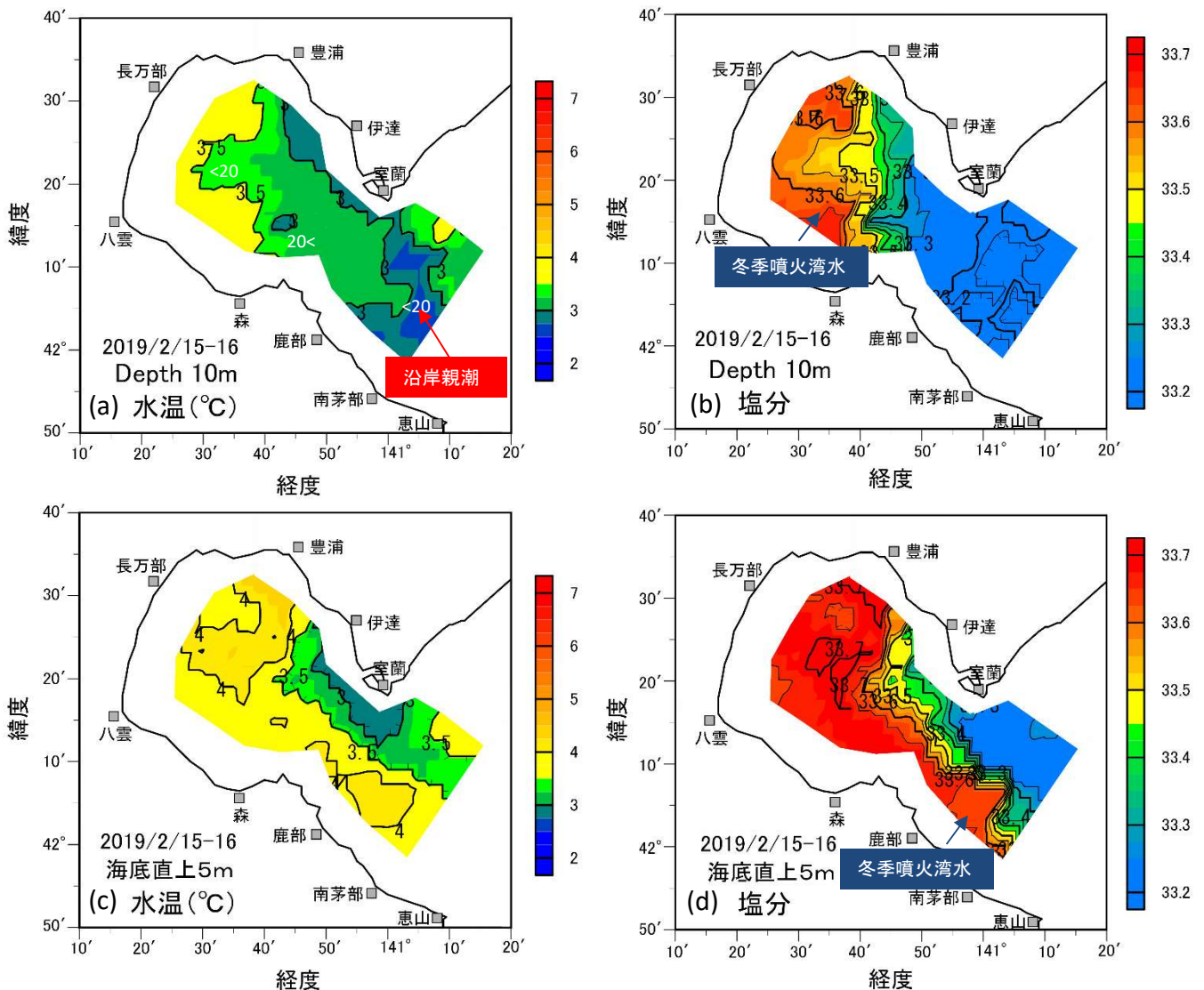


図1 噴火湾およびその周辺海域における10m深(a)水温と(b)塩分、海底直上5mの(c)水温と(d)塩分の水平分布

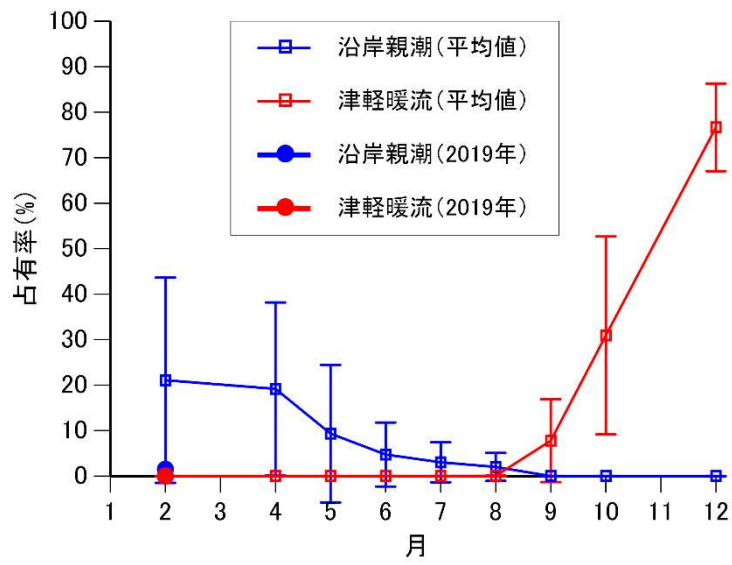


図2 沿岸親潮、津軽暖流の湾内占有率

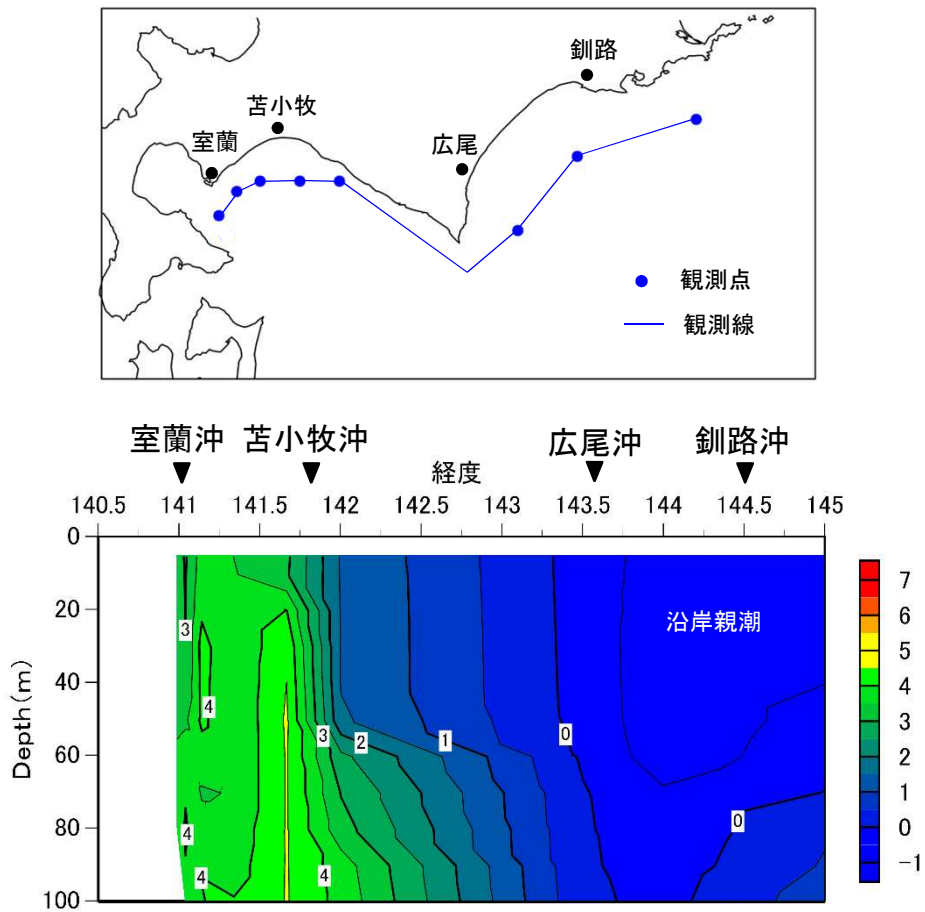


図3 太平洋沿岸域(上図の観測線)における水温の鉛直断面